



実施年度	平成15年～平成24年(10年間)																				
目的	美しい田園風景や心和む水辺空間でのウォーキングを通じて、農業用用水路の役割や、農業水利施設の維持管理の大切さを再発見し、認識を深めてもらう。																				
参加人数	<table><tr><td>H15</td><td>H16</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H19</td></tr><tr><td>123</td><td>218</td><td>157</td><td>166</td><td>309</td></tr><tr><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td></tr><tr><td>326</td><td>234</td><td>225</td><td>236</td><td>211</td></tr></table> ○10年間の延べ参加人数は約2,200人 ○スタッフは毎年50人～80人 ○ウォーキング協会、JA、GT協議会等と連携	H15	H16	H17	H18	H19	123	218	157	166	309	H20	H21	H22	H23	H24	326	234	225	236	211
H15	H16	H17	H18	H19																	
123	218	157	166	309																	
H20	H21	H22	H23	H24																	
326	234	225	236	211																	

みどり
水土里のみちウオーキング MAP

- ① 難大度ではありませぬ。他人のペースを強さでなんでも強迫しめたい、めいめい強
制しながらかく歩いて下さい。
- ② 巻道は遊ぶ者ばかりのものがお好きでせぬ。巻道の幅面に意を傾けたいように交
差ルートを歩く。御一方の地が前方の交差点のようになり歩けて下さい。
- ③ ゴミは各自持ち帰るものとして下さい。道中のゴミを捨てたなどには厳禁にしな
下さい。道土のゴミを踏みつけたり歩くのがワンダーフォーエーのマナーです。
- ④ 歩行中の邪魔にはご遠慮して下さい。
- ⑤ その他地味服の着用にはご遠慮下さい。



400年の歴史 《仁井田堰と新田開発》

H²「美しき水の郷あきた」より

「に井田恵小誌」の巻首によれば「昔この近由してた建物の川は豪雨のたびに洪水を起し、田界を泥濘と化し、さては久保田城下にも洩水して餐費の罄を極めた」と記されている。藩主は、これを憂い、広大な原野の開墾を成功させるためには、この原始的な河原道となっている建物の川の改修をすべきであることに気付いた。

佐竹藩利忠に参じた。
利忠は、仁井田燮重郎の創始者・楠津恵思の婿であった。彼は、この治水工事をわずか3年足らずで完成させ、次いで岩見川に水脈を求めて、山崎館いいた仁井田に通ずる15kmの水路開削に從事した。つまり、治水から利水、そして開墾という手順を踏むことによって、はじめて広大な原野の開墾は成功に向かっていったと見えるだろう。



▲海と水を溶えて流れるに井田君(管理官:仁井田昭三)と伊藤中(伊藤忠)より取水され、地中の水を流れる水脈の動きを見れば、電というよりは、まるで一本の川のように。



仁井田神社



新堀石が出土し、その下から土に水を引いたため
の争が露出した。この石を二弁体として配った
と書かれている。川村新古論は、和田・藤原地
内の岩見川から山道堀りて水を引き入れ、30 余
m を開通した。当時の水圧(みずた)に対して堀
を掘削し、土を掘り出したと述べている。また、



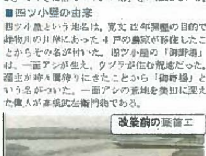
安政元年(1854)6月20日、前吉永首領の大洪水が四ノ小屋を襲った。雄物川と岩見川の大増水は、一端に雄越と下川原の両方から押し寄せ、武左新門退の土手を一瞬のうちに押し崩れ、曾田一箇が氾濫と化した。洪水の時に土手が「威

■仁井田運の経歴

仁井田運の経歴は、今から約400年前までさかのぼる。當時に仁井田、西平小笠、平島一帯は、荒れた開墾地で、あきらかに大勢、仁井田諸藩がたりに三々五々農民が居住しているに過ぎなかった。仁井田家は古来田に縁づいてから、あきらかに1000年の元治2年（1815）、仁井田家の家老西條忠房は、命を受けて、仁井田諸藩の領地調査に着手した。これは、藩をあげての大プロジェクトだった。しかし、仁井田運の調製と新田開発は、農具が不十分、完全な自由商賣時代、80年もの歳月を費やしている。



些、水田は道路や宅地、遊樂用地等へ転用され、食料を生産するだけでなく、農村の生態系や良好な景観を形成するなど、なる農業水利施設の適切な維持管理に要する。



現在の順宮工

●**「水土里ネット」に井田線の集った役割**
井田川・河内小室地区では砂害にさらけ回化が進み、水田は道路や宅地、施設用地等に転用され減少してきている。一方で、農産・林産は、食料を生産するだけでなく、国土を守り、健全な水循環を育むとともに、豊かな水循環と良好な景観を形成するなど、多岐の機能を発揮している。
水土里ネット「井田線」は、農業生産の基盤となる農機水利施設の適切な維持管理により、多面的機能の発揮に貢献している。相模支庁

■仁井田礪入幹線分水門
右が仁井田礪。左が武左衛門礪(因ッ小屋峠)に
分水されている。古い水門でしたが、近
代的な水門に改修されました。

現在の頭首工

ウォーキングの様子



6



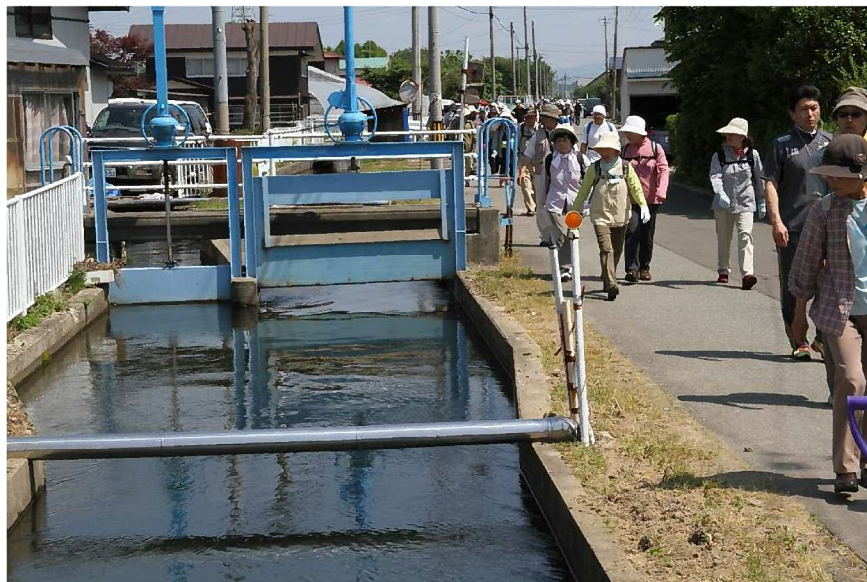
7



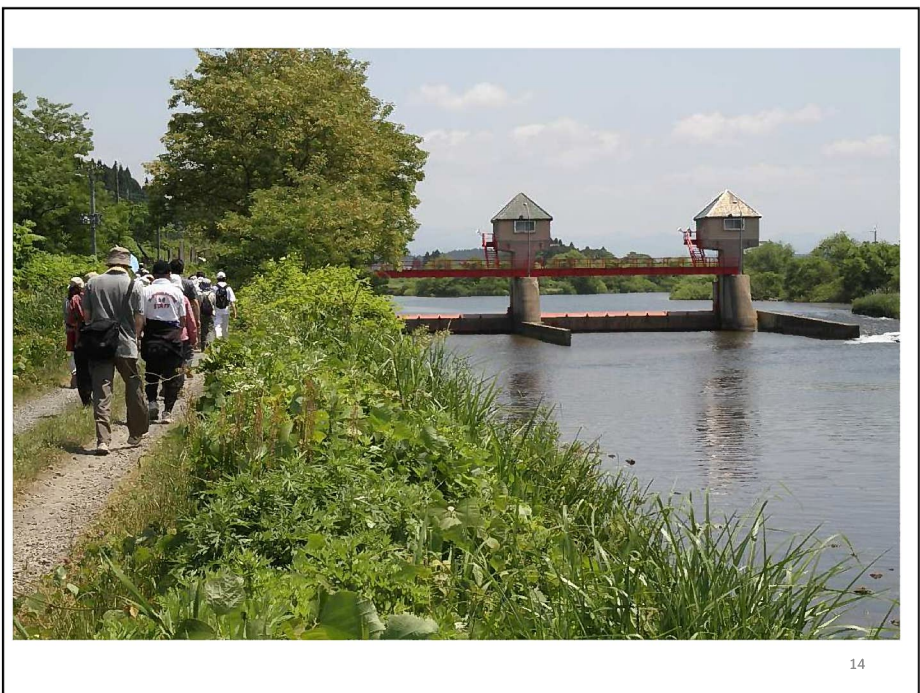




11



12





15

JAとの連携(完歩証と一緒にお米をプレゼント)



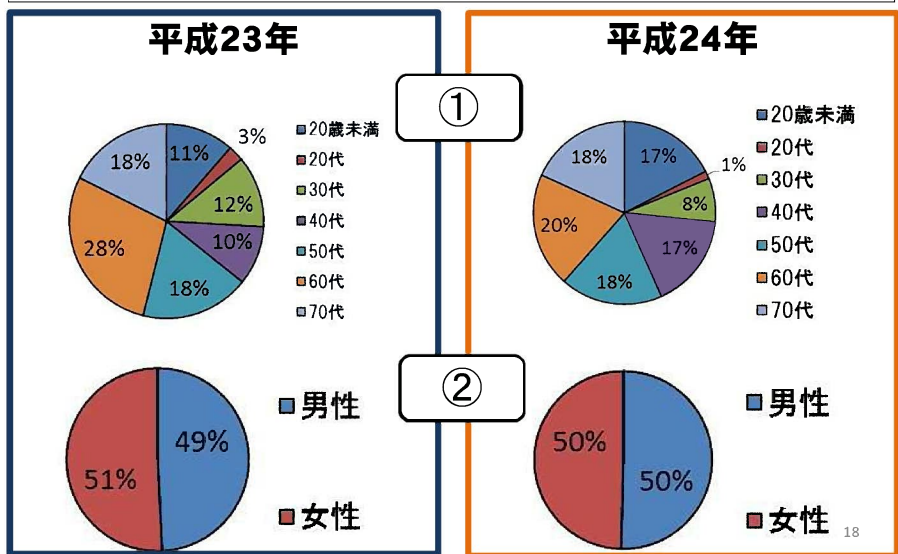
16

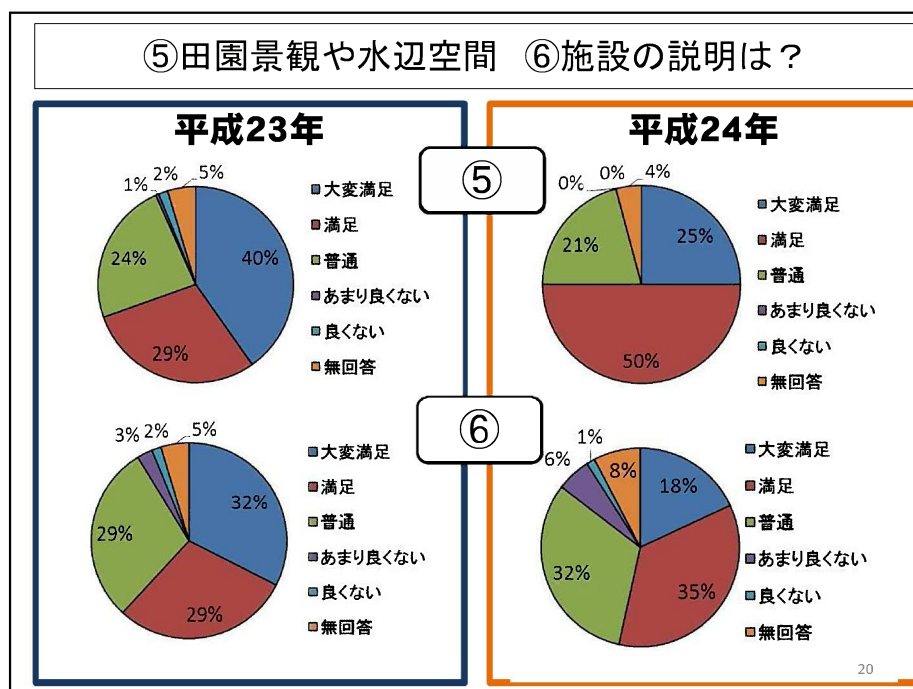
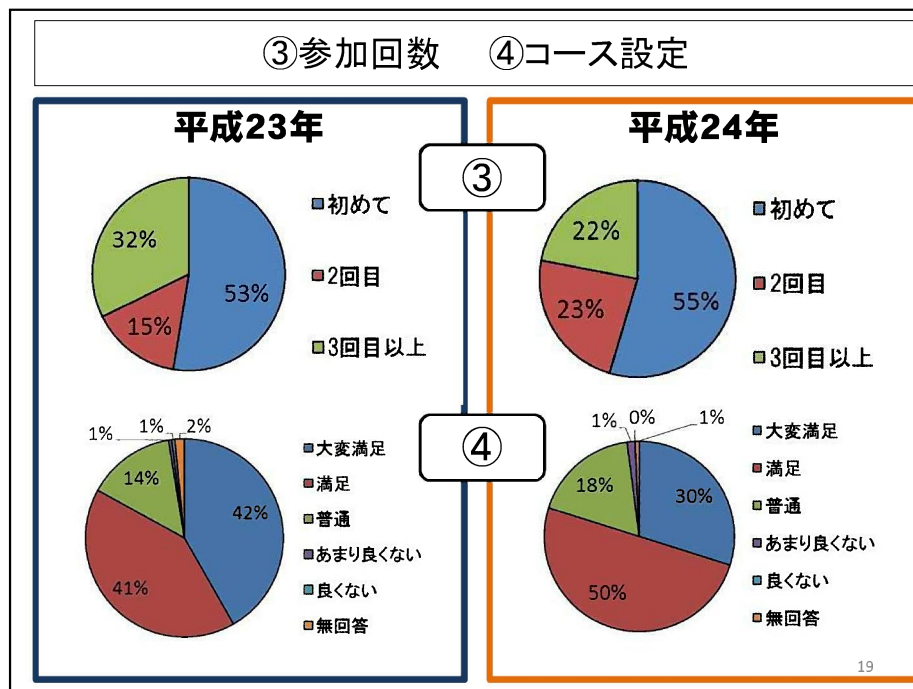
グリーンツーリズム協議会との連携(会場で地元の新鮮野菜を販売)



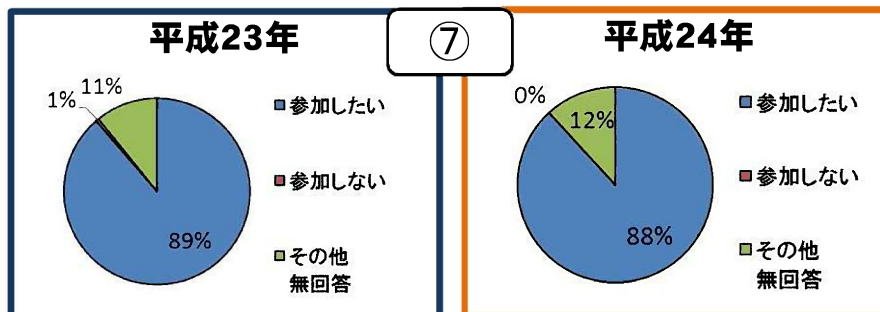
アンケート調査結果（平成23年・24年）

①参加者の年代 ②性別





⑦次回は？ 感想やメッセージ記入欄



感想・メッセージ（参加者・スタッフ）

▼次回は別の道を歩いてみたい。たまにコース変更を

▼スピード調整が必要（速すぎる）。砂利道しんどい。休憩箇所増やして

▼沿線農家との交流があればもっといい

○風景がきれい。緑の美しさにリフレッシュ。水の恵みにふれることができた

○身近な所に良い場所発見。近所の良さを改めて実感

○今までの疲れが癒やされた（被災地からの転勤者）

○親子で楽しめた。県内各地の開催につなげて。

21



感想・メッセージ欄で最も多い記載が「スタッフへの感謝の言葉」
それが10年間続けられた大きな原動力

22